

- このたびは、当社製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。
- この取付説明書に示した表示記号の内容は、製品を安全に正しく施工していただき、施主様等の危害や損害を未然に防止するためのものです。
表示記号の内容を良く理解したうえで、本書の内容（指示）にしたがってください。
- この取付説明書では、次のような記号を使用しています。

安全に関する記号 記号の意味

**警告**

- 取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負うおそれのある内容を示しています。

**注意**

- 取扱いを誤った場合に、使用者が中・軽傷を負うおそれのある内容、または物的損害のおそれがある内容を示しています。

一般情報に関する記号

**ポイント**

- 取付手順で、特に注意して作業をしていただきたいことを示しています。
- 守っていただかないと組付けができない内容、または製品全体に後々不具合が発生するおそれのある内容を示しています。

※

- 取付説明の内容全体（個々の説明枠）にかかる注意事項を示しています。
- 取付説明の内容に制限がある場合の条件を示しています。

**補足**

- 説明の内容で知っておくと便利なことを示しています。

<施工の前に>

**注意**

- 製品の施工には、危険を伴う場合がありますので必ず専門の工事業者による施工をお願いします。
- 設置場所を確認してください。
・本製品は一般住宅の一階相当部施工用です。それ以外の場所への取付けはしないでください。

**ポイント**

- 部材変形防止のため、製品保管状況を確認してください。
・当製品は、木粉入り高密度樹脂製のため、熱変形することがあります。
取扱いには十分注意してください。
・平らな場所に立てかけないように保管してください。
・暖房機や焚き火近くの高温になる場所には保管しないでください。
・製品上に重量物を長時間重ね置きしないでください。
- 給湯器や暖房機などの熱排気が、製品に直接当たらないように施工してください。熱による部材の変形・劣化のおそれがあります。
- 施工場所に寸法的に正しく納まるか事前に十分確認をしてください。
- 人工木は表面に研磨加工処理を施してありますので、床板の施工方向によっては色調に濃淡が出ます。（樹ら楽ステージの場合）
- 床板表面にはランダムな溝が入っていますので、施工方向によって色調に濃淡が出るようになります。（木彫の場合）
- ロング束柱には取付けできません。
- 施工プランと必要部材が揃っているか確認してください。
- 市販の研磨紙を利用する際は、80番の研磨紙を用いてください。

<施工上のご注意>

⚠ 注意

- 製品の強度低下、またはケガの原因になりますので、ボルト、ネジは弊社純正品の規定本数を使い、下記の推奨締付けトルクで固定した後にゆるみがないか確認してください。
 $\phi 4$ ネジ：1.5N・m $\phi 5$ ネジ：3.0N・m
- 束柱の移動範囲は弊社指定範囲にしてください。
- ネジは弊社純正品の規定本数を確実に締付け、固定してください。
- 基礎石は指定寸法以上のものを使用し、確実に設置してください。
- コンクリートまたはモルタルには、塩分を含む砂（海砂）および塩素系や強アルカリ系のコンクリート用混和剤（凍結防止剤、凝固防止剤、急結剤など）は使用しないでください。使用するとアルミなどの金属が腐食する原因になります。必要な場合は非塩素系や非アルカリ系の混和剤をご使用ください。

🔑 ポイント

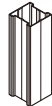
- 施工工事にあたっては、安全に施工を行なってください。
 - ・作業服および保護具（保護帽、安全帯、眼、耳、手、足の保護具）を正しく使用してください。
 - ・作業場所の整理整頓を行なうとともに、安全確保を行なってください。
特に高所作業での安全確保、倒壊防止、照明による照度の確保など。
 - ・器具、工具、保護具などの機能を確認し、使用してください。
 - ・作業は、相互の作業と各作業工程を考慮して進めてください。免許、技能講習、特別教育が必要な作業は、有資格者が行なってください。
 - ・作業者が相互に安全確認を行なってください。健康状態を十分確認し、健康管理を実施してください。
 - ・万が一、事故が発生した際には、直ちに手当を行ない、救助を第一に心がけてください。
- モルタルやコンクリートの抽出液が、工事中に製品に付着しないように注意してください。抽出液は強アルカリ性で、シミやムラなどの外観不良の原因になります。
- 製品の表面に付着したモルタルやコンクリートなどは、速やかに拭き取ってください。
- 施工中についた表面すりキズは、引き渡し前に研磨紙で補修してください。補修方法は、「14.施工後の補修」を参照してください。
- 施工中についた表面の汚れやシミは、引き渡し前に水洗いをしてください。中性洗剤を薄めたものを使用した場合は、よく水洗いをしてください。

✎ 補足

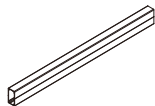
- 本書では、デッキ本体の正面側にリードデッキを取付ける場合を代表で示します。

■梱包明細表

【1】リードデッキ束柱セット

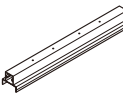
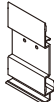
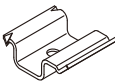
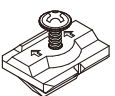
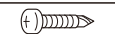
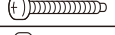
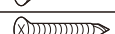
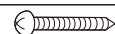
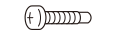
名 称	略 図	員 数
リードデッキ束柱		1
束柱固定金具		1
【1-1】 $\phi 4 \times 13$ ナベドリルネジ		5
【1-2】 $\phi 5 \times 35$ セルフタップアンカー		1

【2】筋交いセット

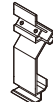
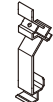
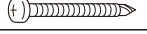
名 称	略 図	員 数	
		2本入り	3本入り
筋交い		2	3
筋交いキャップ		4	6
【2-1】 $\phi 4 \times 25$ ナベドリルネジ		4	6

■ 梱包明細表のつづき

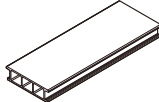
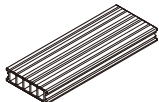
【3】 リードデッキ大引束柱セット

名 称	略 図	員 数			
		樹ら楽		木彫	
		3枚用	5枚用	3枚用	5枚用
リードデッキ束柱		1	1	1	1
リードデッキ大引 (床板3枚用)		1	—	1	—
リードデッキ大引 (床板5枚用)		—	1	—	1
束柱連結材		1	1	—	—
幕板取付材		2	2	—	—
束柱連結材 (木彫用)		—	—	1	1
幕板取付材 (木彫用)		—	—	2	2
束柱固定金具		1	1	1	1
横止め金具		2	4	—	—
横止め部品 (ドリルネジ組込済)		—	—	2	4
幕板B取付補助部材		3	3	—	—
幕板取付補助部材		—	—	3	3
【3-1】 φ4×13ナベドリルネジ (生地)		6	6	6	6
【3-2】 φ5×35セルフタッパンアンカー		1	1	1	1
【3-3】 φ4×25ナベタッピンネジ2種		4	4	4	4
【3-4】 φ4×19ナベドリルネジ		2	2	2	2
【3-5】 φ4×19サラドリルネジ		7	7	—	—
【3-6】 φ4×25サラドリルネジ		—	—	7	7
【3-7】 φ4×30トラスタッピンネジ1種		6	6	6	6
【3-8】 φ4×13ナベタッピンネジ1種 G=4 (ブロンズ)		3	5	—	—

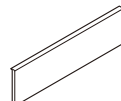
【4】 リードデッキ幕板B取付材セット

名 称	略 図	員 数	
		樹ら楽	木彫
正面幕板B取付材		2	—
正面幕板取付材		—	3
【4-1】 φ4×25サラドリルネジ		4	6
【4-2】 φ4×30ナベドリルネジ		4	3
取付説明書〈E347〉	—	1	1

【5】 床板セット

名 称	略 図	員 数					
		樹ら楽			木彫		
		1本入	2本入	3本入	1本入	2本入	3本入
床板		1	2	3	—	—	—
床板		—	—	—	1	2	3

【6】 幕板Bセット

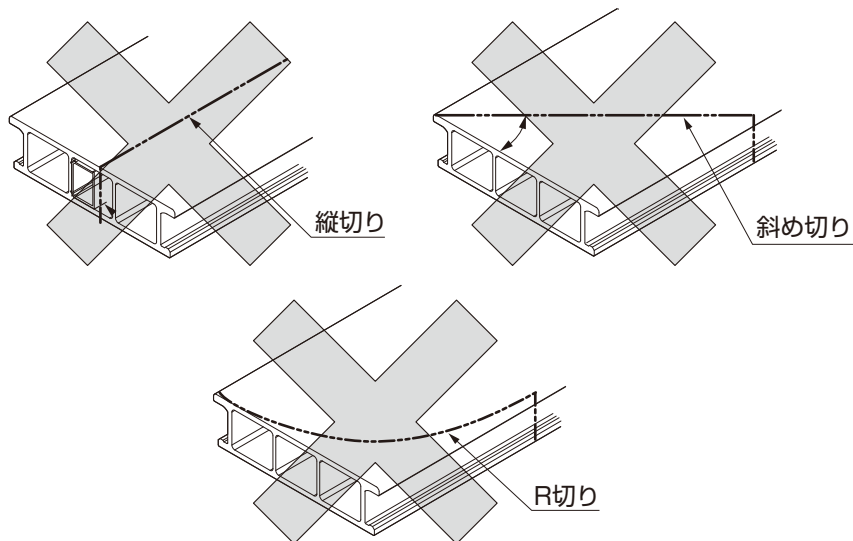
名 称	略 図	員 数			
		樹ら楽		木彫	
		2本入	3本入	2本入	3本入
幕板B		2	3	—	—
幕板		—	—	2	3

【7】 幕板Bコーナーキャップセット

名 称	略 図	員 数	
		樹ら楽	木彫
幕板B90°コーナーキャップ		1	—
幕板90°コーナーキャップ		—	1
【7-1】 φ4×14サラタッピンネジ1種		2	2

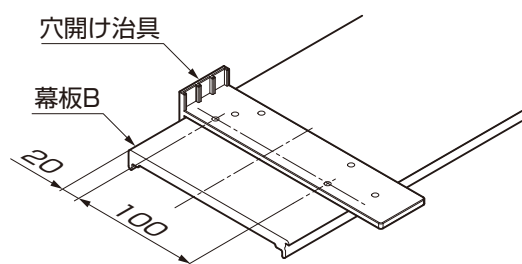
1. 施工時の重要確認事項

※図は樹ら楽ステージを示します。
樹ら楽ステージ 木彫も同様の施工になります。



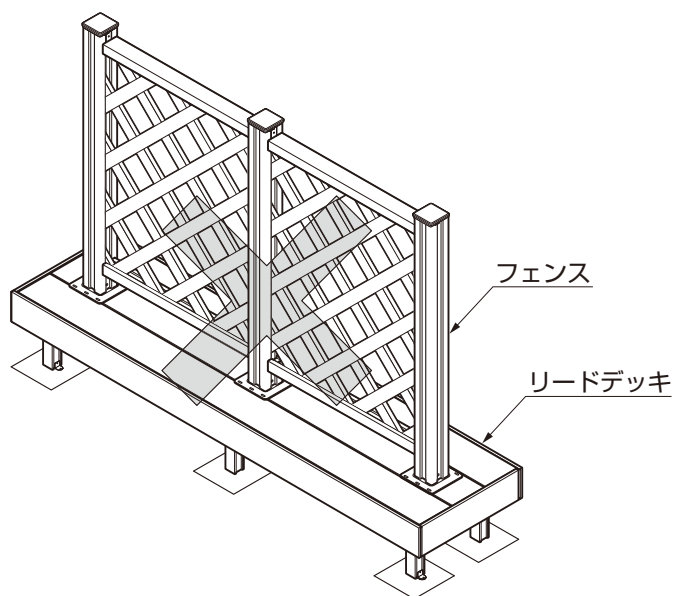
ポイント

- 床板の間口調整（縦切り）及び、斜め切り、R切りはしないでください。



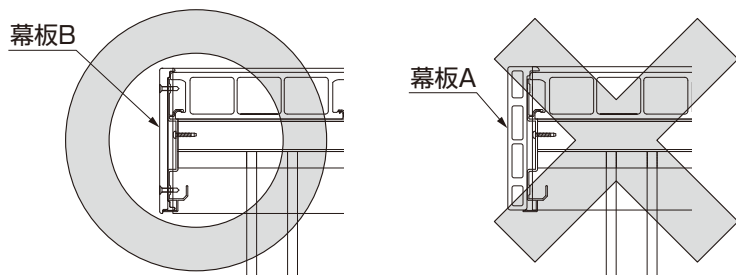
ポイント

- 床板・幕板を取付ける際は、樹ら楽ステージ本体に同梱の専用の穴開け治具を使い固定してください。ネジの打込み位置がずれると、材料の変形・破損の原因になります。



ポイント

- リードデッキにフェンスを取付けないでください。



ポイント

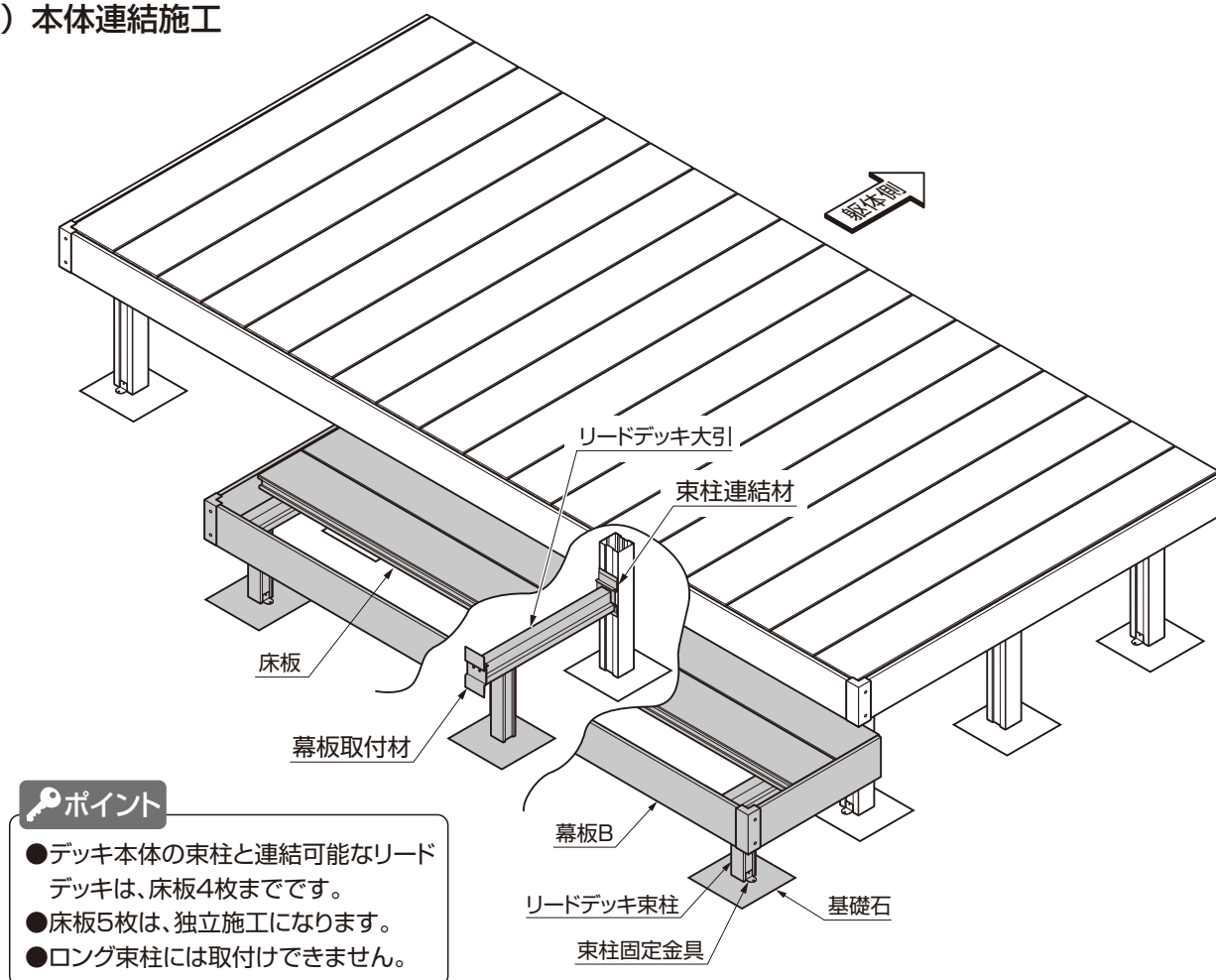
- リードデッキに取付け可能な樹ら楽ステージの幕板は「幕板B」です。「幕板A」は取付けできません。

2. 基本寸法と各部名称

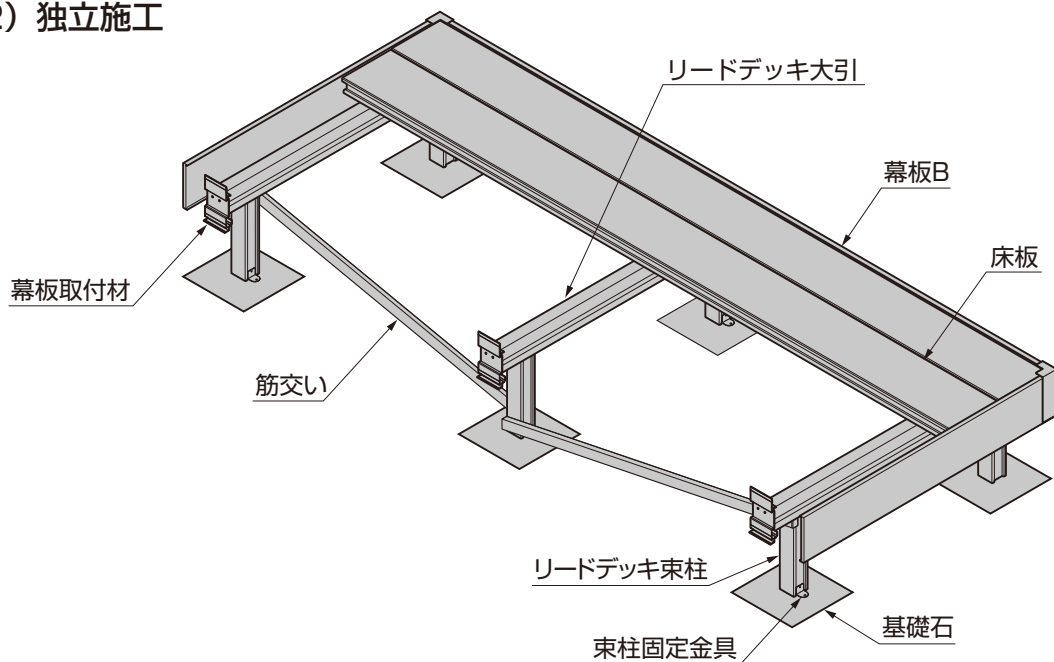
※図は樹ら楽ステージを示します。
樹ら楽ステージ 木彫も同様の納まりになります。

2-1 各部名称

(1) 本体連結施工



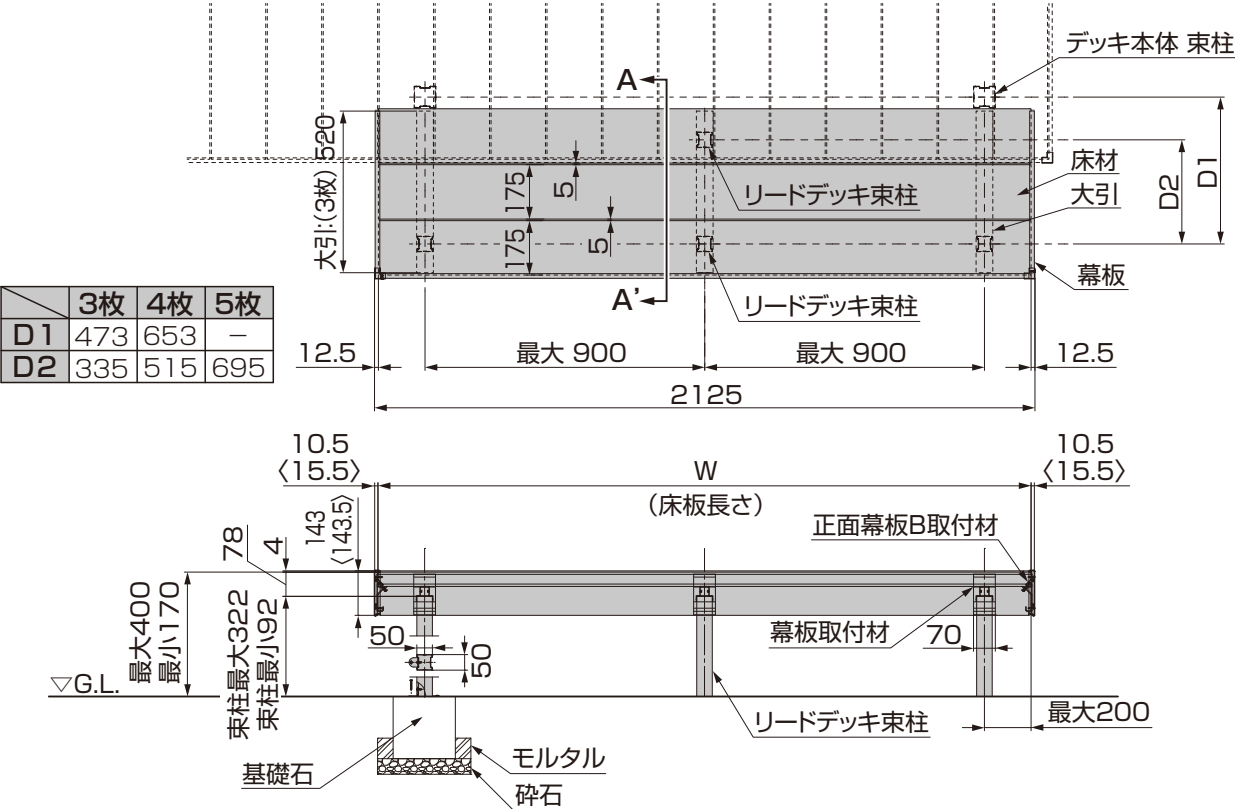
(2) 独立施工



2. 基本寸法と各部名称(つづき)

2-2 基本寸法納まり ※ 〈 〉 内寸法は樹ら楽ステージ 木彫の場合を示します。

(1) 本体連結施工 間口方向納まり図 (正面)



ポイント

●デッキの間口最大寸法は、 $W+21\text{mm}$ ($W+31\text{mm}$) です。

(2) 出幅方向納まり図 (側面)

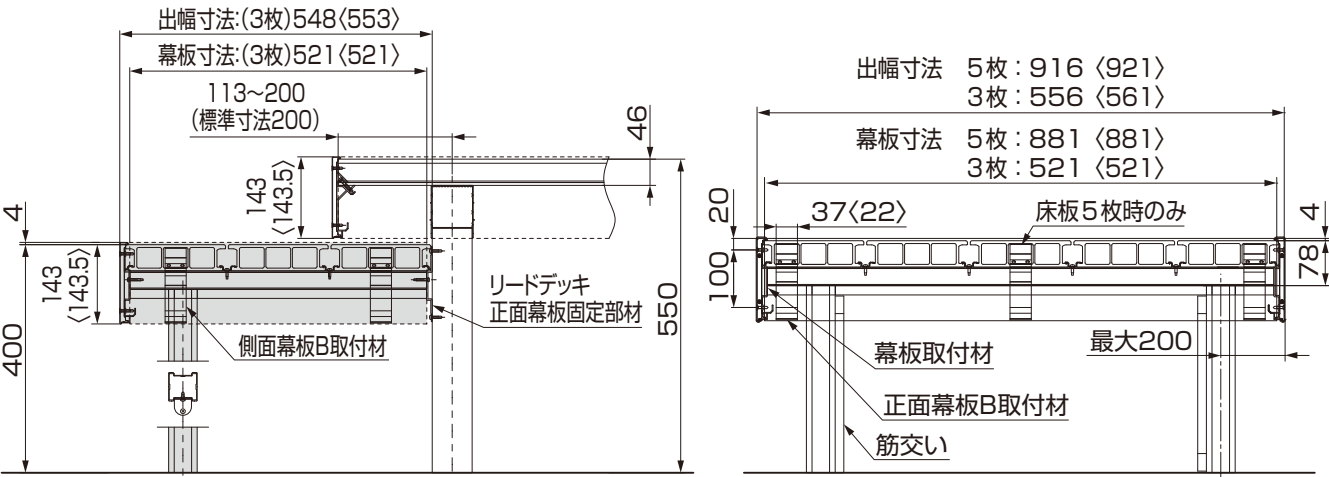
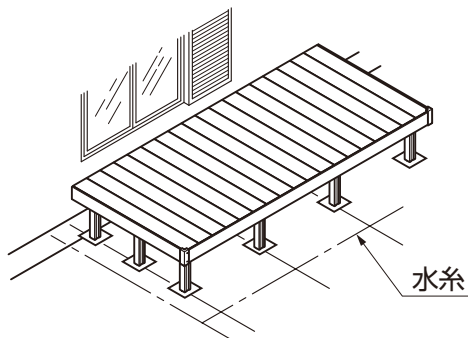


図2-1 本体連結施工〈A-A'断面〉

図2-1 独立施工

3. 基礎石の配置



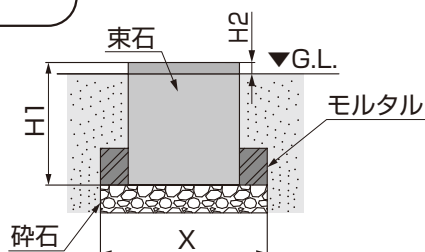
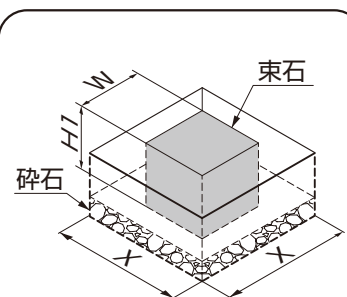
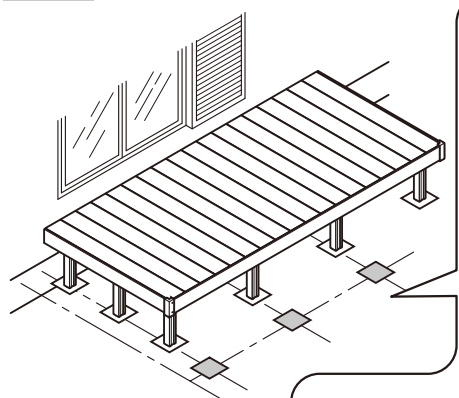
- ①「2.基本寸法と各部名称 2-2 基本寸法納まり」を参照して、前面・両側面の水糸に寸法出しをし、基礎石の位置を決定してください。

ポイント

- 本体の仕様位置によっては、柱と基礎石が干渉する場合があります。本体の施工前に確認の上、必要に応じて基礎を移動してください。

4. 基礎の施工 ※図は樹ら楽ステージを示します。樹ら楽ステージ 木彫も同様の納まりになります。

4-1 束石の埋込み



- ①指定位置に穴を掘り、碎石を敷いて突き固めてください。

ポイント

- この作業が十分でないと、基礎の沈みが発生する場合があります。

- ②束石を設置し、レベルを出してください。
③束石のまわりをモルタルで固めてください。

●束石寸法表

束石サイズ	W	H1	H2	X
200×H200	200	200	50mm以下	300
200×H180	200	180	50mm以下	300
190×H190	190	190	50mm以下	290
300×H100	300	100	全埋込み	400

ポイント

- モルタルで基礎を固めないと、基礎の浮き沈みが発生する場合があります。

4-2 束柱の加工

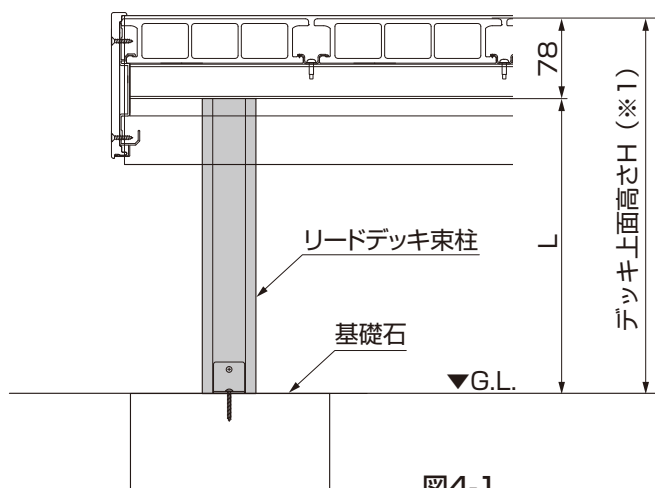


図4-1

- ①デッキ上面高さH(※1)を決定してください。

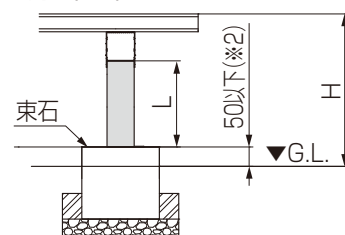
補足

- デッキ上面高さを決めると、束柱Lが決ります。
($L = H - 78$)

- ②リードデッキ束柱を、L寸法で切断加工してください。

補足

- 束石の高さ(※2)を考慮して切断してください。



- H(※1)は最大400mm、最小170mmです。

5. リードデッキ束柱とリードデッキ大引の取付け

ポイント

- 束柱固定金具の底面が束柱Aの下面より下にならないように取付けてください。

リードデッキ束柱

束柱固定金具

【3-1】φ4×13ナベドリルネジ（生地）

基礎石基礎部

ポイント

- 束柱固定金具はそれぞれの束柱に交互に取付けてください。

束柱固定金具

リードデッキ大引

基礎石基礎部

リードデッキ束柱

ポイント

- 基礎部材の水平・直角等を確認してください。

リードデッキ大引

40

【3-1】φ4×13ナベドリルネジ（生地）

φ4.5下穴（V溝上）

V溝

リードデッキ束柱

基礎石基礎部

- ①リードデッキ束柱に束柱固定金具を【3-1】で固定してください。
- ②「2.基本寸法と各部名称 2-2 基本寸法納まり」を参照して、前面・両側面の水糸に寸法出しをし、基礎石または基礎部にリードデッキ束柱をのせてください。
- ③リードデッキ大引とリードデッキ束柱をV溝に合わせて【3-1】で固定してください。

ポイント

- リードデッキ大引のV溝に沿ってφ4.5下穴をあけてください。

6. 束柱連結材または幕板取付材の取付け

※図は樹ら楽ステージを代表で示します。
樹ら楽ステージ 木彫も同様の施工となります。

リードデッキ大引

束柱連結材

束柱連結材

【3-3】φ4×25ナベタッピンネジ2種

図6-1 本体連結施工

【本体連結施工の場合】

- ①束柱連結材をリードデッキ大引に【3-3】で固定してください。

ポイント

- 本体連結施工できるリードデッキは、床板4枚までです。
- 床板5枚は独立施工になります。
- 本体の束柱と連結する側の束柱連結材を、リードデッキ大引に先に取付けてください。（本体連結施工の場合）
- 反対側は床板を取付け終えてから幕板取付材を取付けてください。

リードデッキ大引

幕板取付材

幕板取付材

【3-3】φ4×25ナベタッピンネジ2種

図6-3 独立施工

【独立施工の場合】

- ①幕板取付材をリードデッキ大引に【3-3】で固定してください。

7. 本体デッキへの取付け ※本体連結施工の場合の作業です。

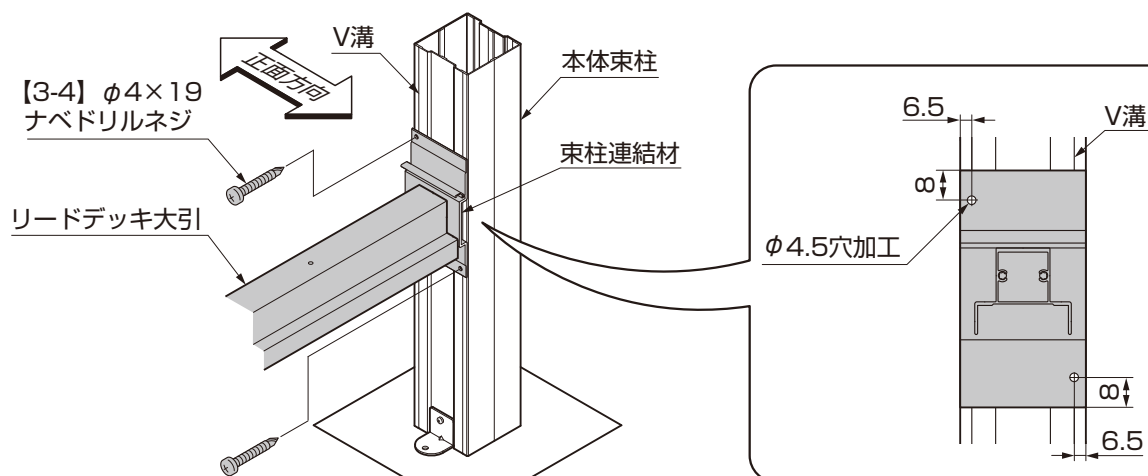


図7-1 本体束柱の正面に取付ける場合

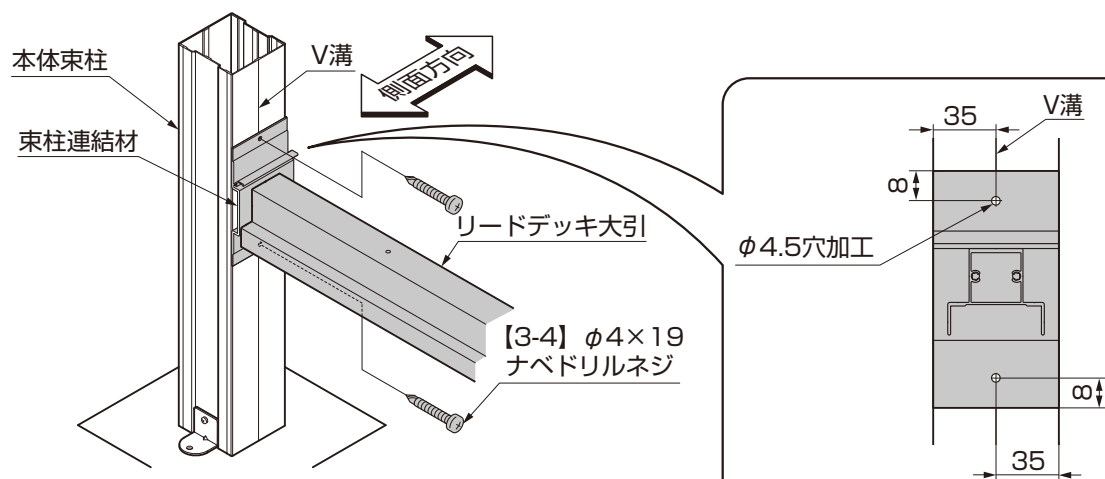


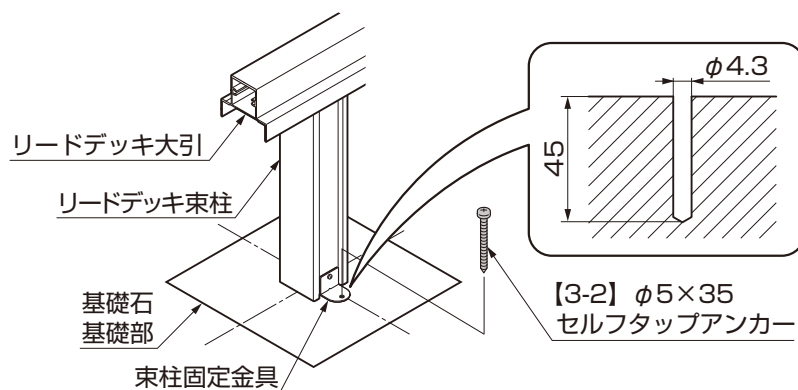
図7-2 本体束柱の側面に取付ける場合

- ①束柱連結材にφ4.5の穴加工をしてください。
- ②リードデッキ大引が取付く位置の本体束柱に、束柱連結材を【3-4】で固定してください。

ポイント

- 本体デッキの束柱ピッチとリードデッキの大引ピッチを同じにしないと、取付けできません。

8. リードデッキ束柱の固定



- ①基礎石または基礎部に、φ4.3で深さ45mmの下穴をあけてください。
- ②束柱固定金具を基礎石または基礎部に【3-2】で固定してください。

ポイント

- 束柱と基礎石の固定は、基礎部材の水平・直角等を確認後、行ってください。

9. 筋交いの取付け ※独立施工の場合の作業です。

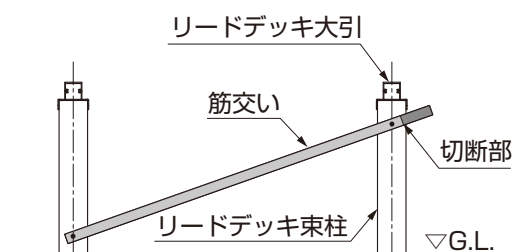
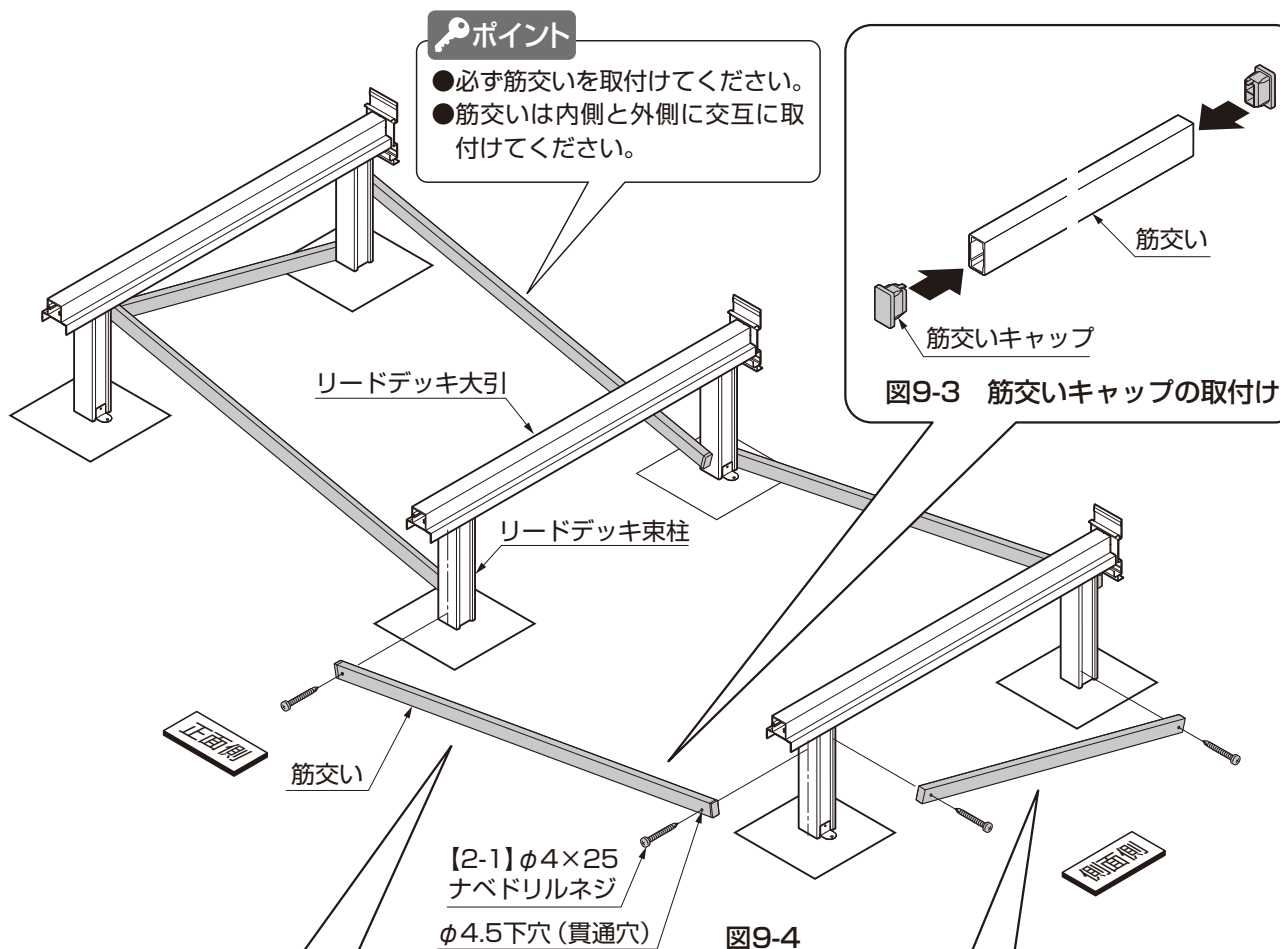


図9-1 正面側

ポイント

- 筋交い端部はリードデッキ束柱からはみ出ないようにしてください。

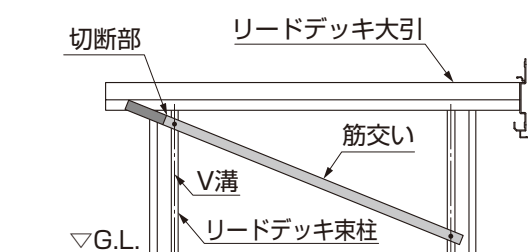


図9-2 側面側

ポイント

- リードデッキ束柱 内-内のV溝センターにネジ止めしてください。段落ち部へのネジ止めはしないでください。
- 筋交い端部はリードデッキ束柱からはみ出ないようにしてください。

- ①筋交いの取付位置を確認し、リードデッキ束柱からはみ出さないように切断してください。(図9-1、図9-2参照)
- ②筋交いの両端に筋交いキャップを押し込んで取付けてください。(図9-3参照)
- ③筋交いにφ4.5の穴をあけてください。(図9-4参照)
- ④筋交いをリードデッキ束柱に【2-1】で固定してください。(図9-4参照)

10. 床板の取付け

※図は樹ら楽ステージ 本体連結施工を代表で示します。
独立施工および木彫も同様の施工となります。

10-1 床板張付け前の確認

(1) 樹ら楽ステージの場合

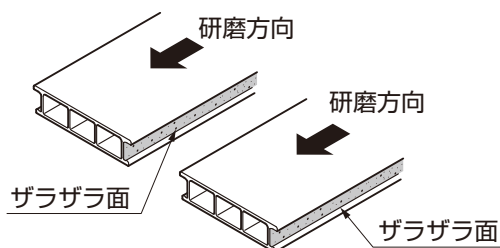
ポイント

〔研磨加工の方向〕

- 床板表面は研磨加工がされており、研磨方向によっては色が異なって見える場合があります。床板の加工方向を一定にしてから固定してください。

側面に加工がある場合

表面がザラザラしている加工面の向きを合わせ、研磨方向を揃えてください。

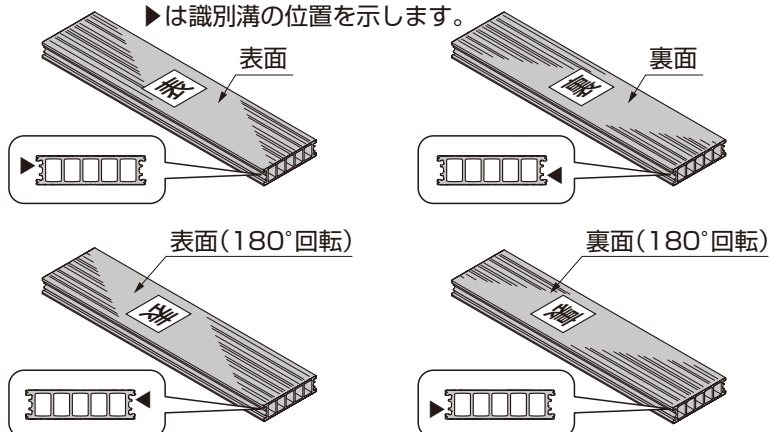
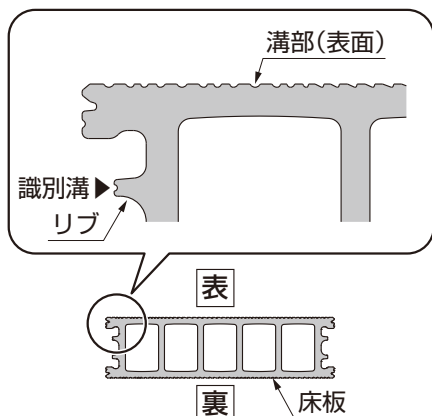


(2) 樹ら楽ステージ 木彫の場合

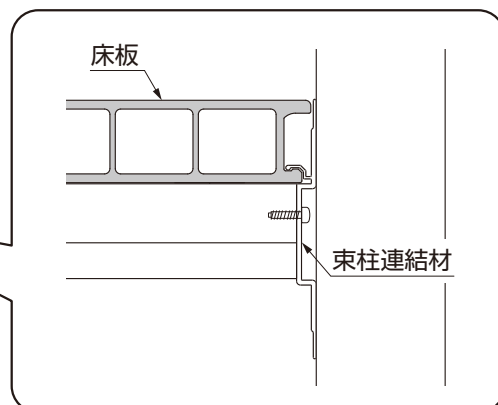
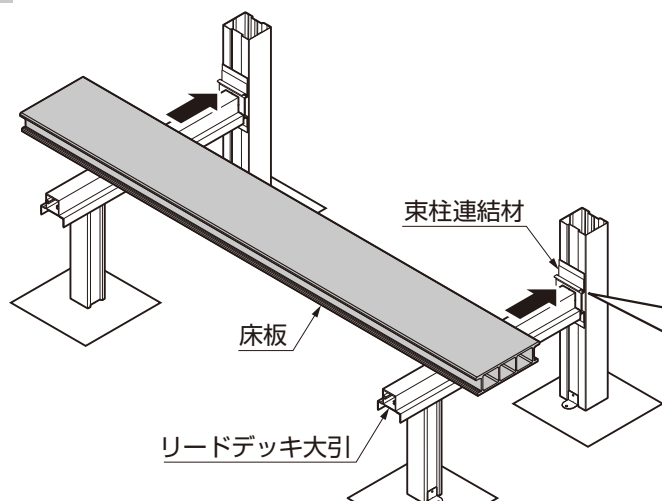
ポイント

- 床板の表面には不規則な溝があり、表裏・回転により4パターンの柄の組合せが可能です。現場状況に合わせて床板を組合せて取付けてください。側面のリブには識別用の溝があります。

▶は識別溝の位置を示します。



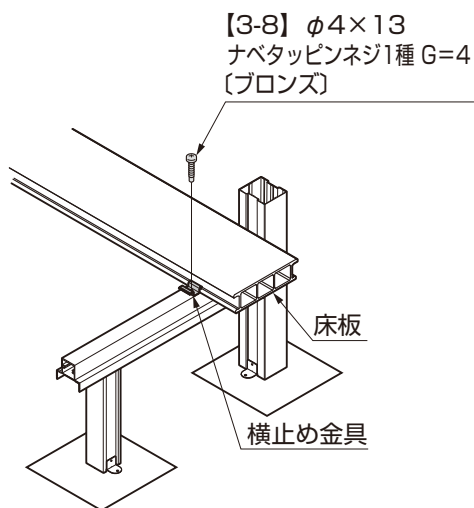
10-2 床板の1枚目の固定



①床板をリードデッキ大引の束柱連結材に差し込んでください。

10. 床板の取付け (つづき)

10-3 横止め金具の取付け



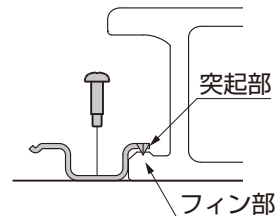
ポイント

- 横止め金具の突起形状(※1)のある側を床板のフィン部に取付けてください。

突起形状(※1)

横止め金具

図10-1 樹ら楽の場合



ポイント

- 横止め部品の突起部(矢印方向)を、床板のフィン部にのせて取付けてください。

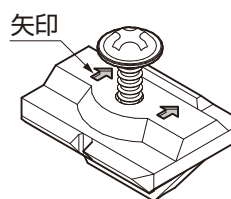
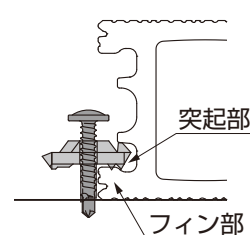


図10-2 木彫の場合



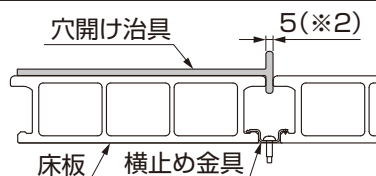
【樹ら楽の場合】

- ①横止め金具を床板のフィン部に乗せて、【3-8】で下穴の位置に取付けてください。

【木彫の場合】

- ①横止め部品を床板のフィン部に乗せ、組込済のネジで下穴の位置に取付けてください。

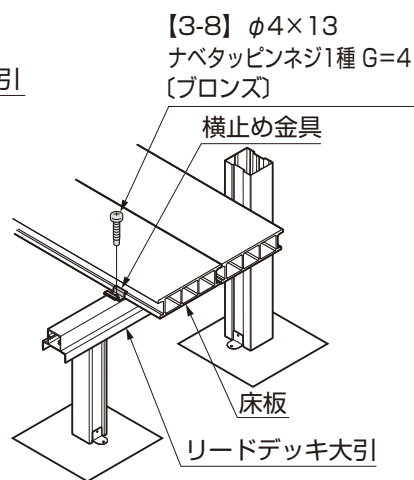
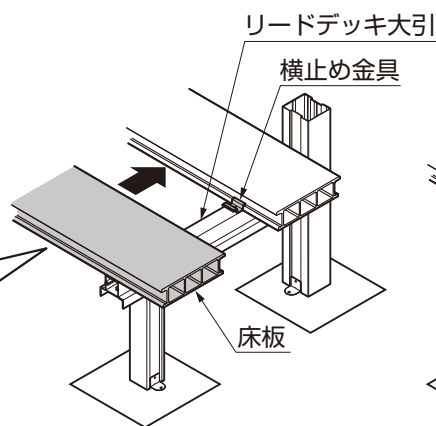
10-4 床板2枚目以降の取付け



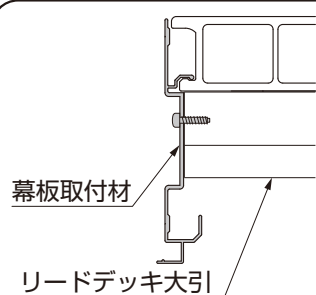
ポイント

- 床板のすき間は穴開け治具で確認できます。(※2)
- 入りにくい時はゴムハンマーで軽くたたいて入れてください。

- ①床板を横止め金具に差し込んでください。
- ②2枚目以降の床板も同様に差し込んでください。



10-5 幕板取付材の取付け



【3-3】φ4×25
ナベタッピンネジ2種

幕板取付材

リードデッキ大引

- ①幕板取付材をリードデッキ大引に【3-3】で取付けてください。

11. 正面幕板B取付材・正面幕板取付材の取付け

11-1 正面幕板B取付材・正面幕板取付材の取付位置確認

ポイント

- 正面幕板B取付材の取付けピッチは、540mm以内（床板2枚おきまで）にしてください。
- 正面幕板B取付材は、床板両端のホーロー部に必ず取付けてください。

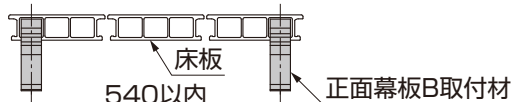


図11-1 樹ら楽 床板3枚の場合

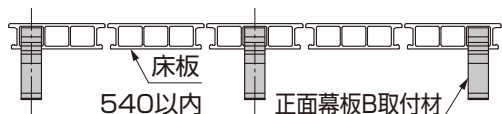


図11-2 樹ら楽 床板5枚の場合

ポイント

- 正面幕板取付材の取付けピッチは、360mm以内（床板1枚おきまで）にしてください。
- 正面幕板取付材は、床板両端のホーロー部に必ず取付けてください。

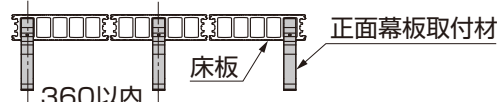


図11-3 木彫 床板3枚の場合

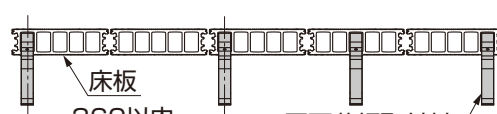


図11-4 木彫 床板5枚の場合

①正面幕板B取付材を取付ける位置を確認してください。

11-2 正面幕板B取付材・正面幕板取付材の取付け

※図は樹ら楽ステージを示します。木彫も同様の施工となります。

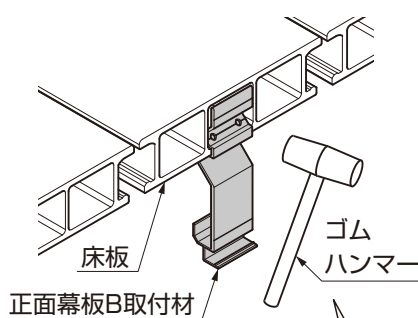


図11-5

ポイント

- 正面幕板B取付材を床板にあて、ゴムハンマーなどで叩いて確実にはめ込んでください。

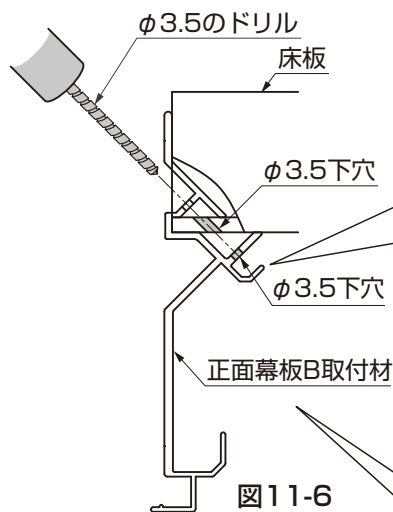
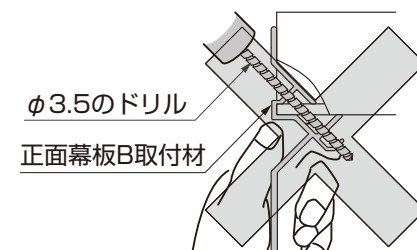


図11-6

注意

- 下穴は、正面幕板B取付材に貫通させないでください。貫通したドリルで手を傷つけるおそれがあります。



ポイント

- 正面幕板B取付材がずれないように押さえながら穴をあけてください。

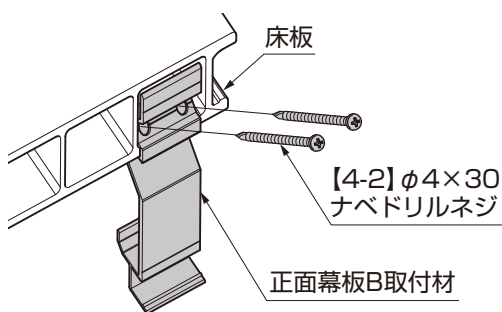


図11-7 樹ら楽の場合

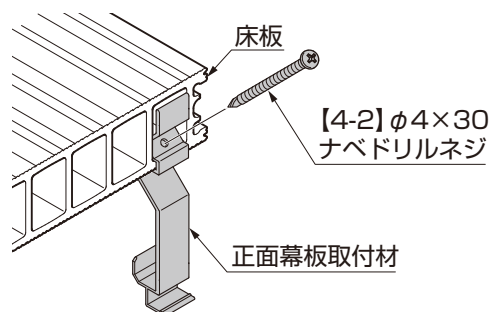
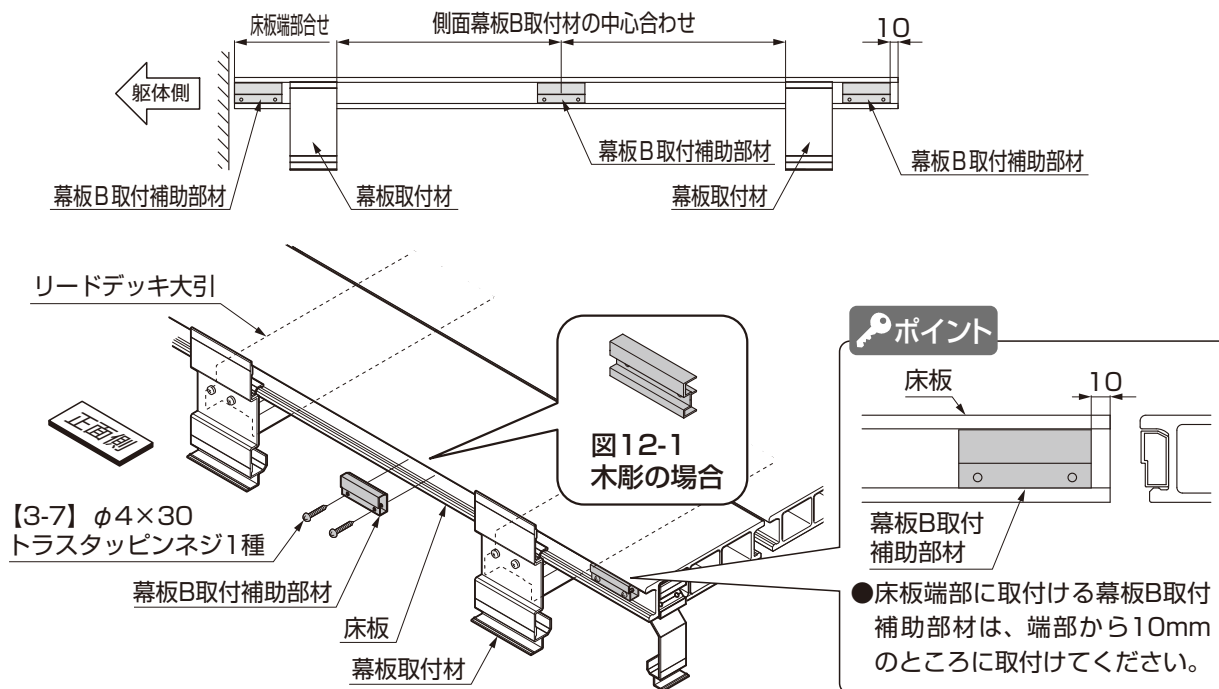


図11-8 木彫の場合

- ①正面幕板B取付材を床板のホーロー部にはめこんでください。(図11-5参照)
- ②正面幕板B取付材の穴に従って床板下面と正面幕板B取付材にφ3.5の下穴をあけてください。(図11-6参照)
- ③正面幕板B取付材を、床板のホーロー部に【4-2】で固定してください。(図11-7、図11-8参照)

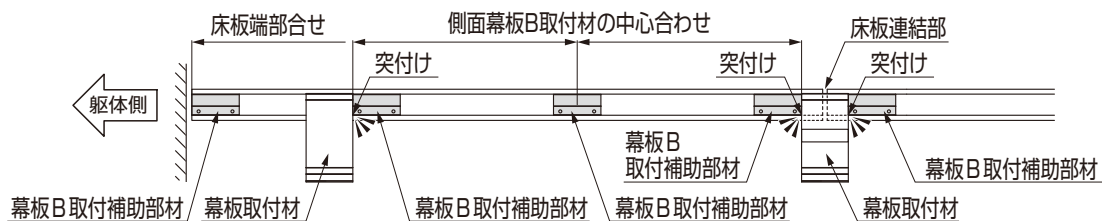
12. 幕板Bの取付け ※図は樹ら楽ステージを示します。木彫も同様の施工となります。

12-1 幕板B取付補助部材の取付け（床板連結なしの場合）

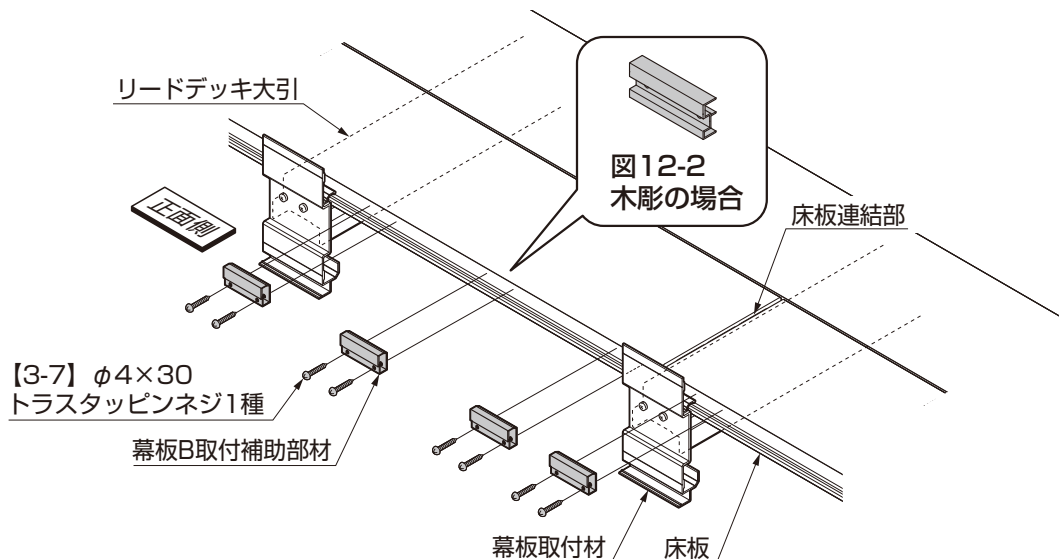


①幕板B取付補助部材を床板側面のリードデッキ大引間中間部と、床板端部とリードデッキ大引間中間部に【3-7】で固定してください。

12-2 幕板B取付補助部材の取付け（床板連結ありの場合）



①幕板B取付補助部材を上図の位置に【3-7】で固定してください。



12-3 幕板Bの加工

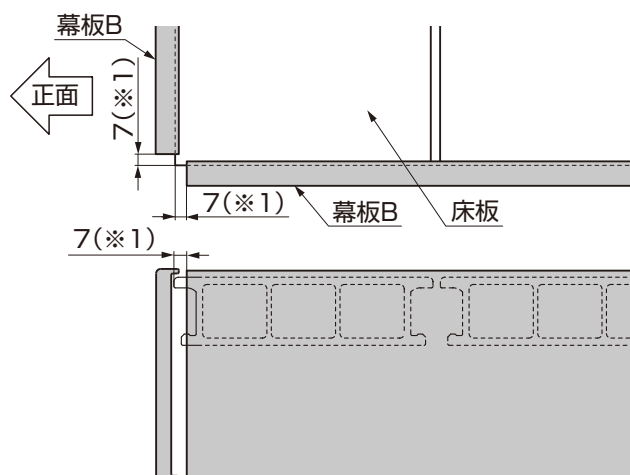


図12-3 幕板の切断

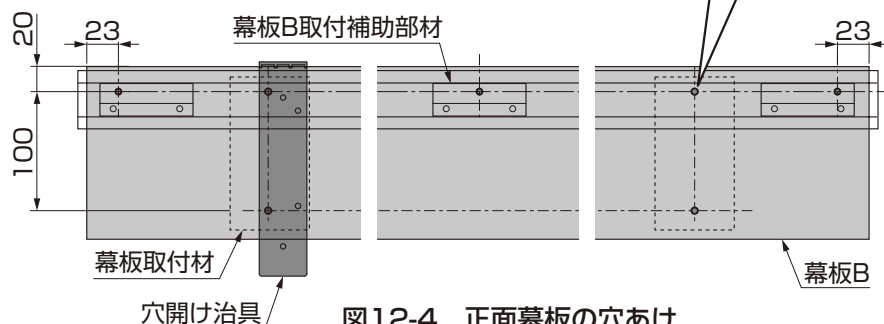


図12-4 正面幕板の穴あけ

補足

- 本体の横止め金具セットに同梱の穴開け治具を使用すると便利です。

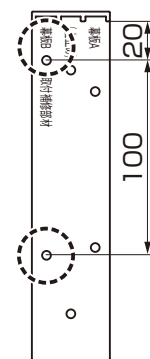
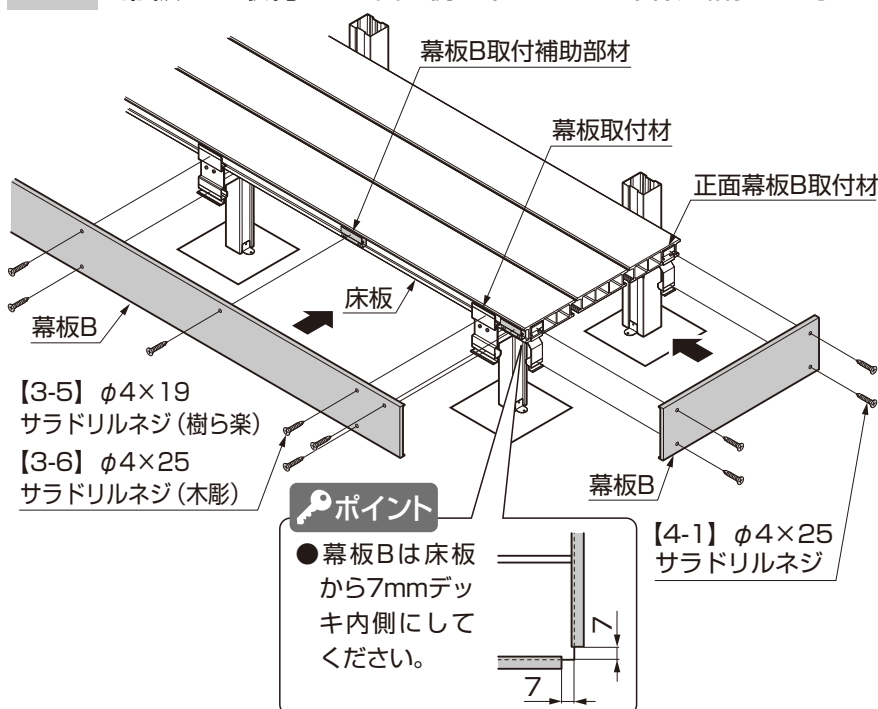


図12-5 側面幕板の穴あけ

- ① 幕板Bを切断してください。(図12-2参照)
- ② 幕板取付材及び正面幕板B取付材と幕板B取付補助部材が付いている部分に、 $\phi 4.5$ の下穴と $\phi 8$ サラ取りを幕板Bにしてください。(図12-3、図12-4参照)

12-4 幕板Bの取付け ※図は樹ら楽ステージ 本体連結施工を示します。木彫も同様の施工となります。



- ① 正面の幕板Bを幕板取付材及び幕板B取付補助部材に、【3-5】または【3-6】で固定してください。
- ② 側面の幕板Bを正面幕板B取付材に、【4-1】で固定してください。

ポイント

- 独立施工の場合は、幕板Bを四方に取付けてください。
- 正面の幕板Bは幕板取付材へは上下2ヶ所、幕板B取付補助部材へは上1ヶ所の取付けとなります。
- 側面の幕板Bは、上下2ヶ所の取付けになります。
- 幕板Bを取付ける際は、施工後の反りを防ぐため幕板中心部で固定してから、両端部方向へ固定していくようにしてください。

13. 幕板B90°コーナーキャップの取付け

※図は樹ら楽ステージを示します。
木彫も同様の施工となります。

ポイント

- 必ず下穴をあけてください。
下穴をあけないと幕板がわ
れるおそれがあります。

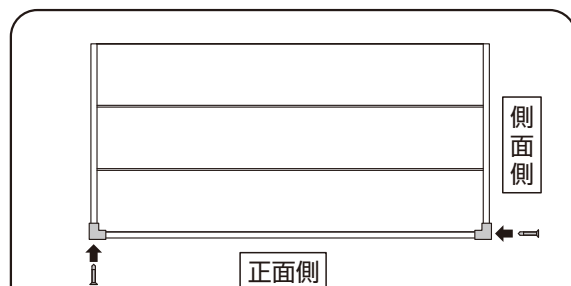
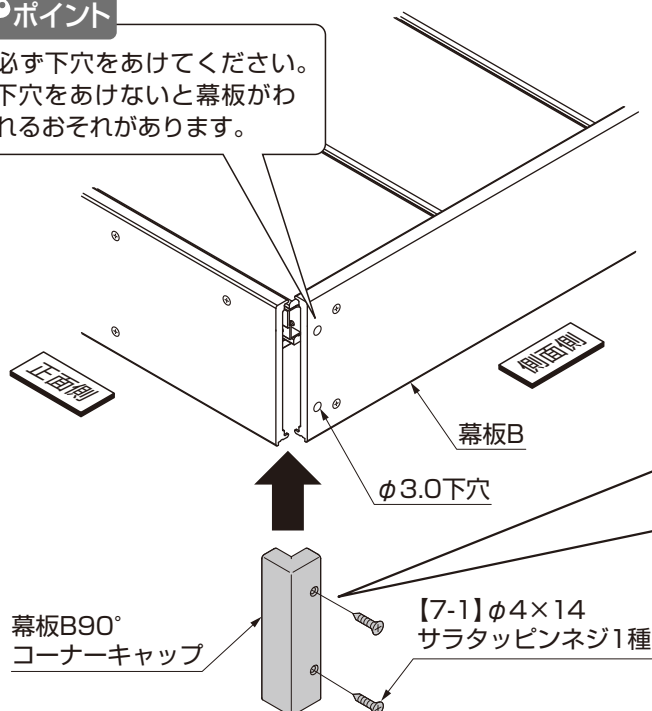


図13-1 本体連結施工の場合

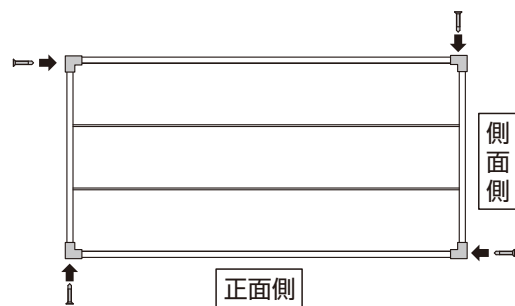


図13-2 独立施工の場合

- ①幕板B90°コーナーキャップを幕板Bコーナー部に当てて、幕板Bにφ3.0の穴を2ヶ所あけてください。
- ②幕板B90°コーナーキャップを幕板Bに【7-1】で取付けてください。

14. 施工後の補修

- ①施工後、表面に付いたすりキズは図の研磨方向(※1)
に補修用研磨紙で仕上げてください。

補足

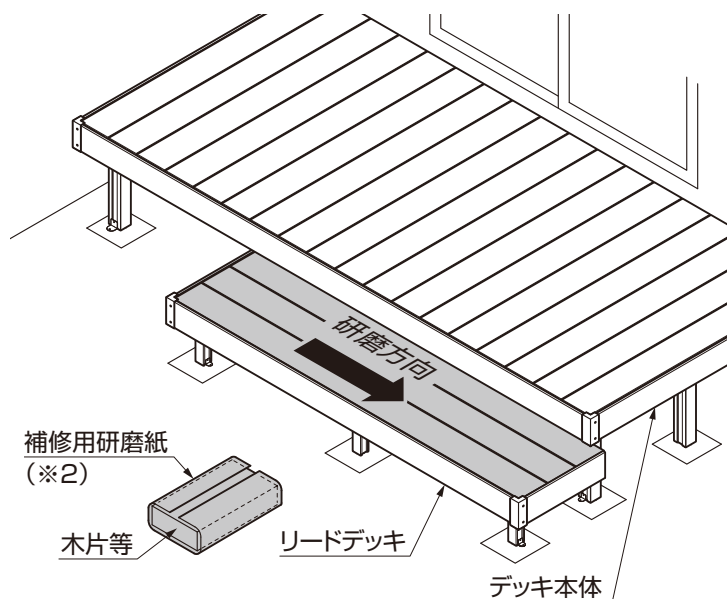
- 木彫には研磨方向がありません。(※1)

ポイント

- 強くこすりすぎないでください。樹ら楽ステージ
は下地が出てしまうおそれがあります。
- 一定の方向にこすってください。
- 1ヶ所を集中的に擦るのではなく、全体をぼかす
感じで磨いてください。
- 平らな部材を研磨紙の裏から補助的に添えて、
研磨紙面をフラットに当てるようにしてください。
(※2)

補足

- 市販の研磨紙を使用する場合は、80番の研磨
紙を使用してください。



取説コード

E347

JZZ626029E
201305A_1041
202010F_1049